

# 2014年3月期 決算説明会

---

荏 原 (6361)

2014年5月9日



---

# 目次

## 1. 決算概要

取締役専務執行役員  
経理財務担当

藤本 哲司

## 2. 今期の見通し

代表取締役社長

前田 東一

(単位：億円)

	2013年3月期	2014年3月期	増減
受注高	4,285	5,122	+ 837
売上高	4,263	4,486	+ 223
営業利益	250	321	+ 71
経常利益	256	313	+ 56
当期純利益	153	189	+ 36

為替レート  
(平均)

1ドル = 84.4円

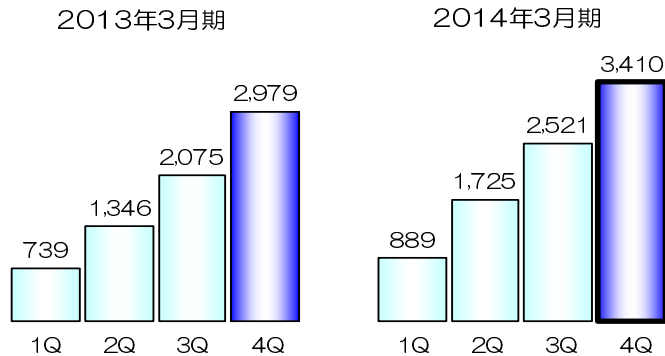
1ドル = 99.7円

(単位：億円)

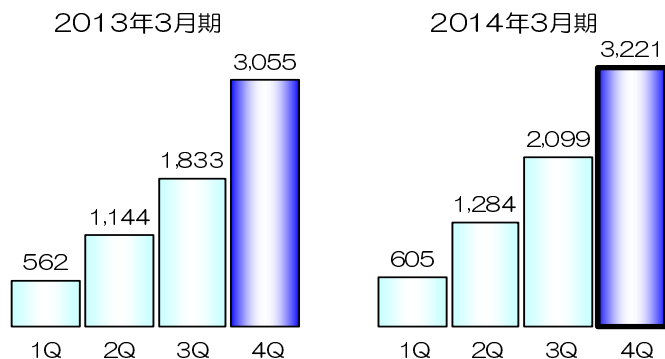
	受注高			売上高			営業利益		
	2013年 3月期	2014年 3月期	増減	2013年 3月期	2014年 3月期	増減	2013年 3月期	2014年 3月期	増減
風水力事業	2,979	3,410	+ 430	3,055	3,221	+ 165	159	221	+ 62
エンジニアリング事業	666	986	+ 320	524	529	+ 4	51	47	△ 4
精密・電子事業	622	708	+ 86	665	718	+ 53	33	46	+ 13
その他事業調整	16	16	△ 0	17	16	△ 0	6	6	△ 0
合計	4,285	5,122	+ 837	4,263	4,486	+ 223	250	321	+ 71

### 風水力事業

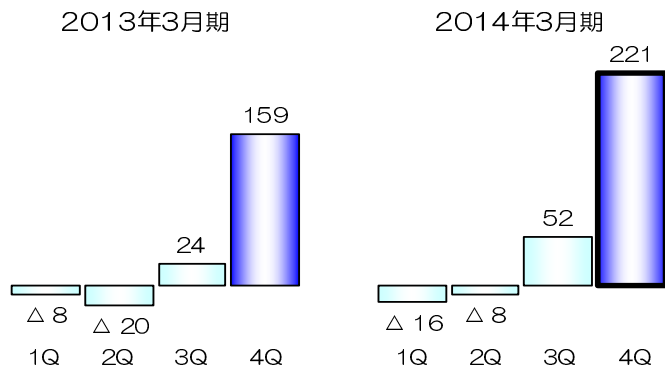
#### 受注



#### 売上



#### 営業利益



#### 【受注】

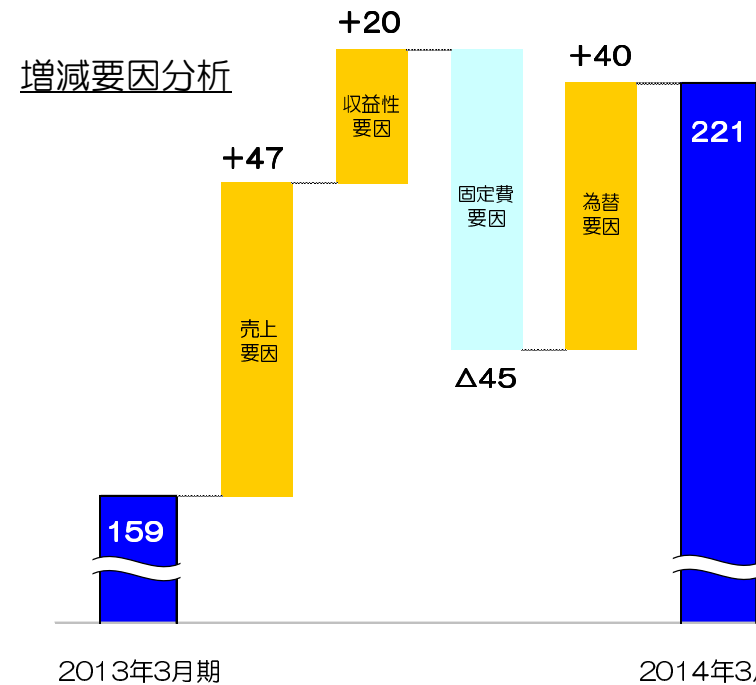
- ・新興国、北米で石油・ガス市場、化学市場での設備投資が活発化
- ・国内の公共市場も好調に推移

#### 【売上】

- ・為替の影響

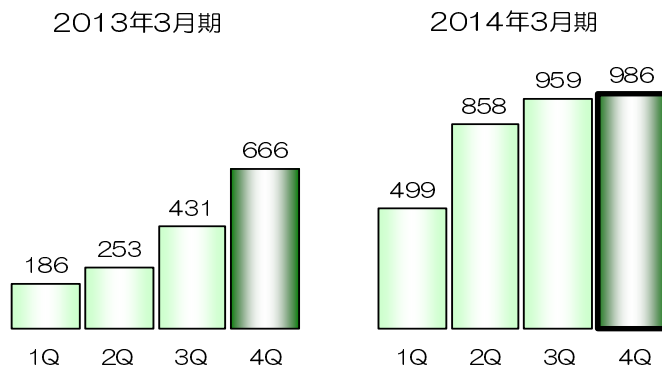
#### 【営業利益】

- ・増収効果、円安効果
- ・ポンプ事業、冷熱機械事業の収益性が回復



### エンジニアリング事業

#### 受注



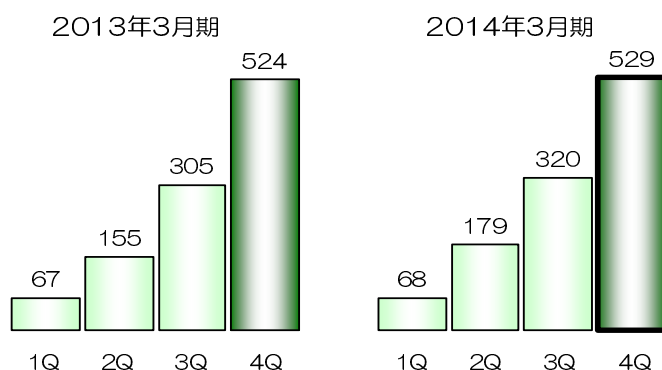
#### 【受注】

- 2013年3月期に落札した複数の案件を2014年3月期に正式受注計上
- 基幹改良工事、延命化工事などが増加

#### 【売上】

- EPC、O&Mの構成比は2013年3月期とほぼ変わらず

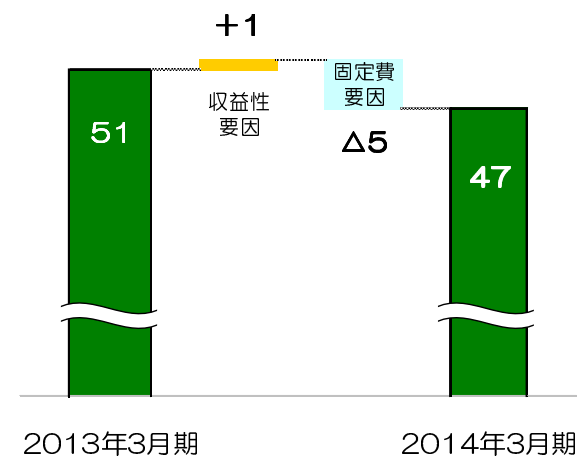
#### 売上



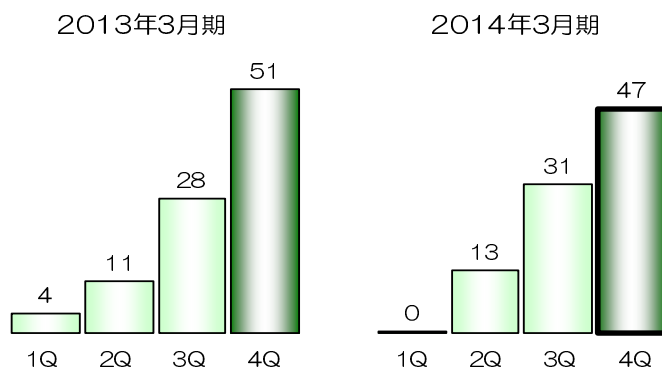
#### 【営業利益】

- 固定費が若干増加するも原価低減でカバー

#### 増減要因分析

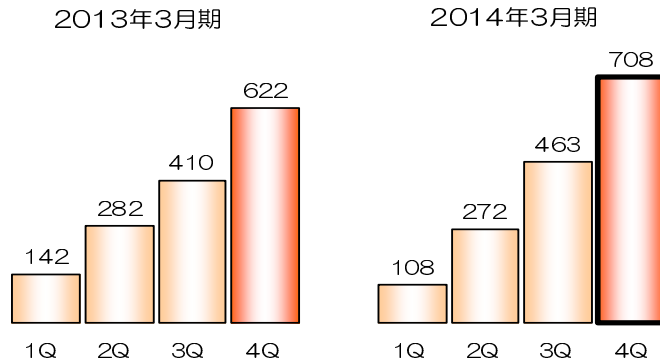


#### 営業利益



### 精密・電子事業

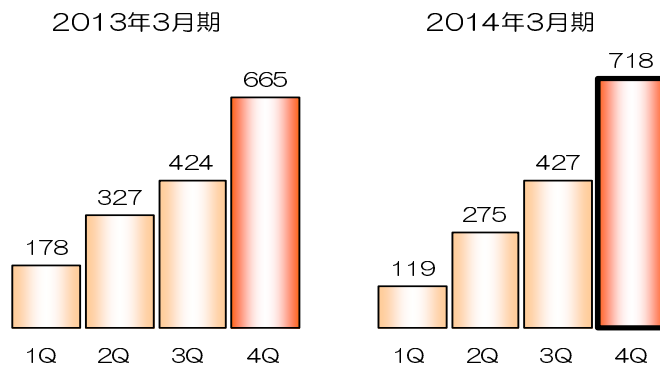
#### 受注



#### 【受注、売上】

- 半導体市場が回復
- 3Q以降、主要顧客を中心に設備投資が増加

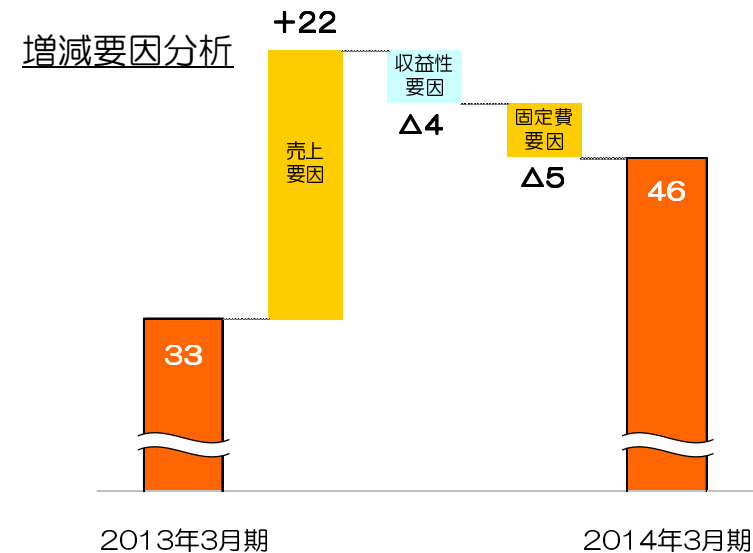
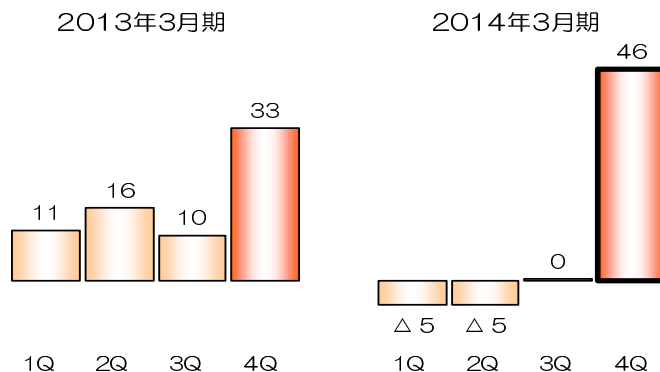
#### 売上

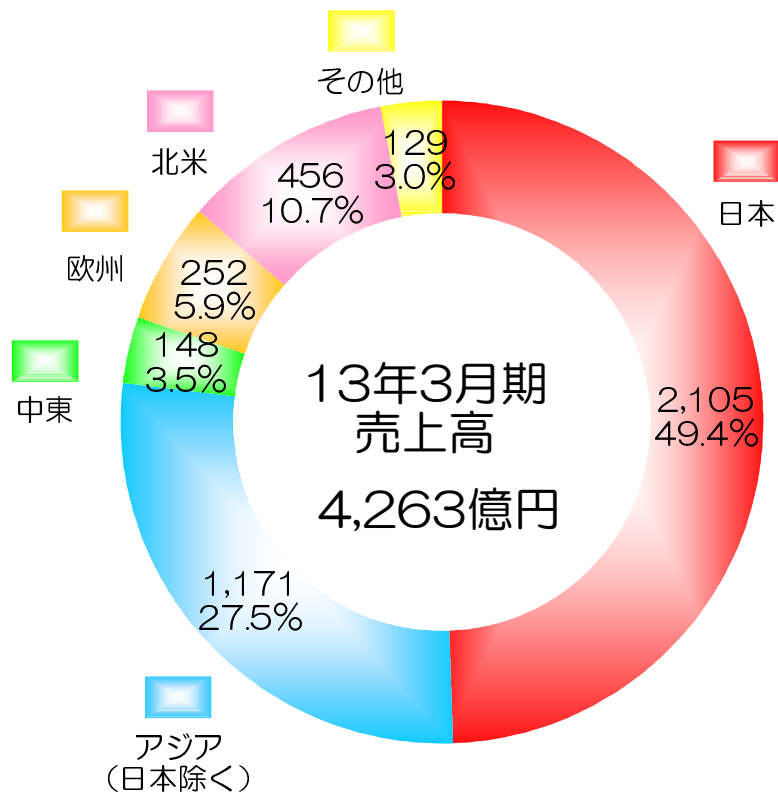


#### 【営業利益】

- 増収効果
- 競争激化

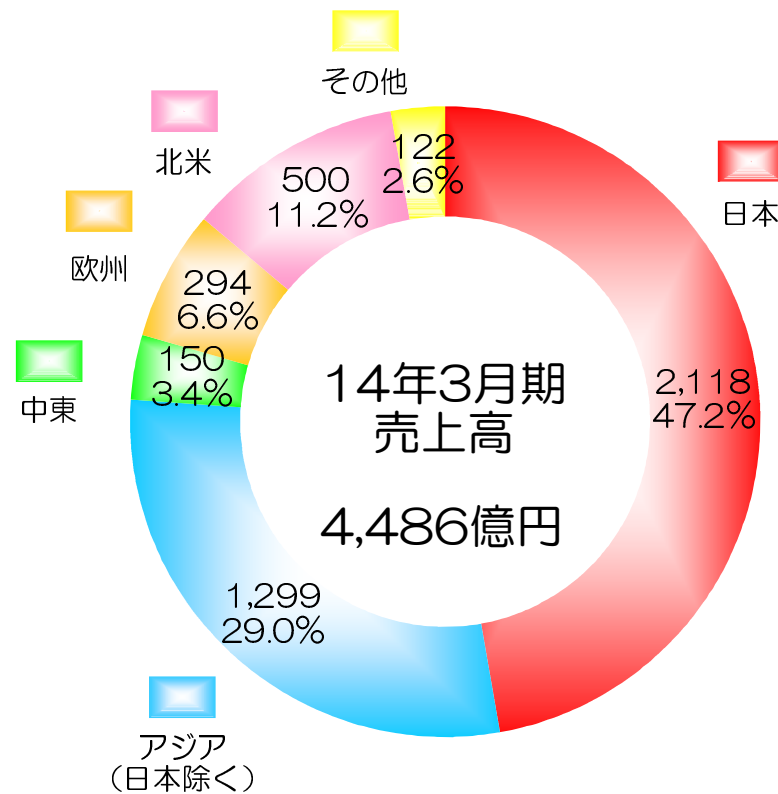
#### 営業利益





海外売上高  
2,157億円

海外売上比率  
50.6%



海外売上高  
2,367億円

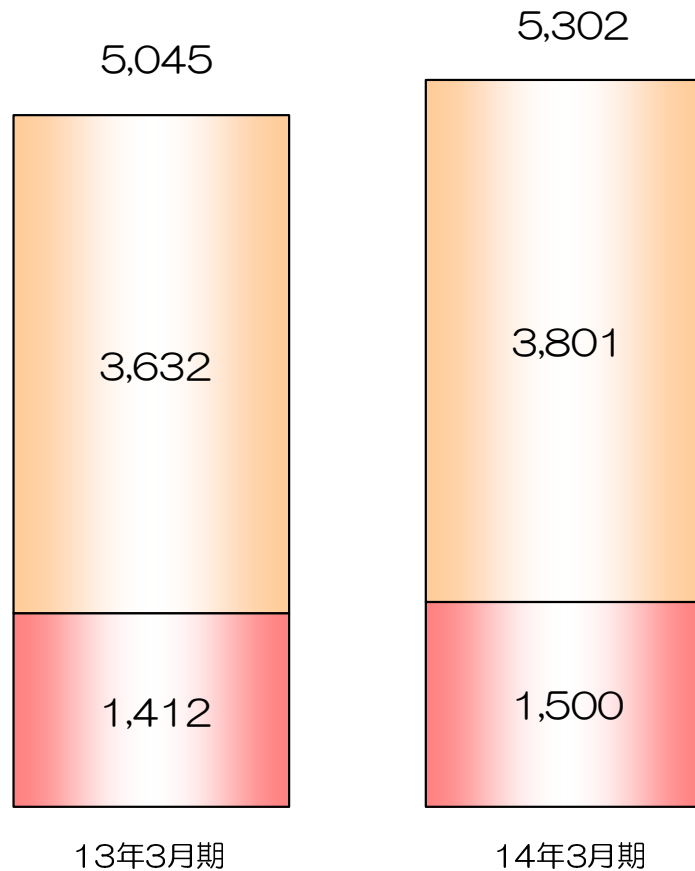
海外売上比率  
52.8%



資産

- 流動資産
- 固定資産

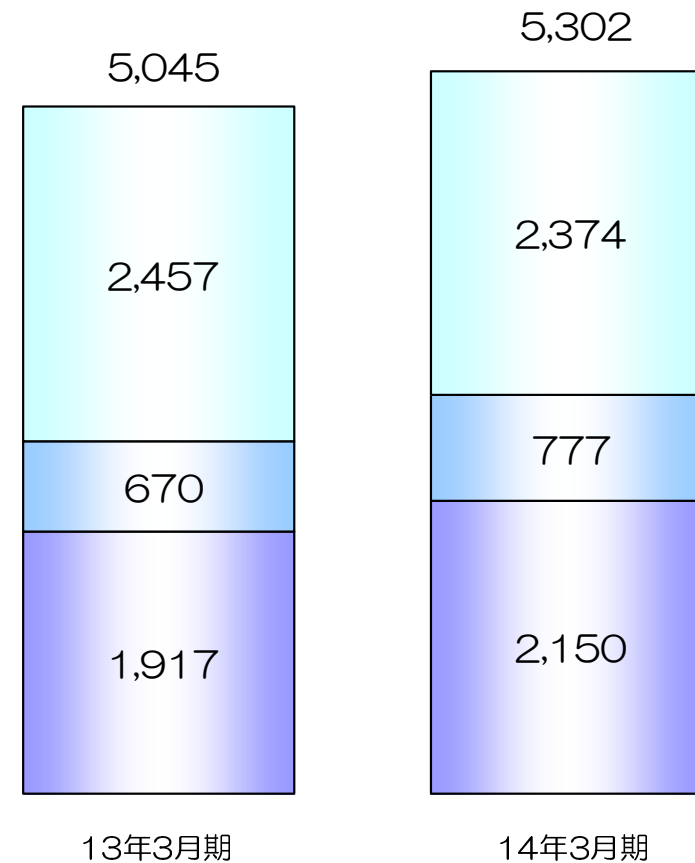
(単位：億円)



負債/純資産

- 流動負債
- 固定負債
- 純資産

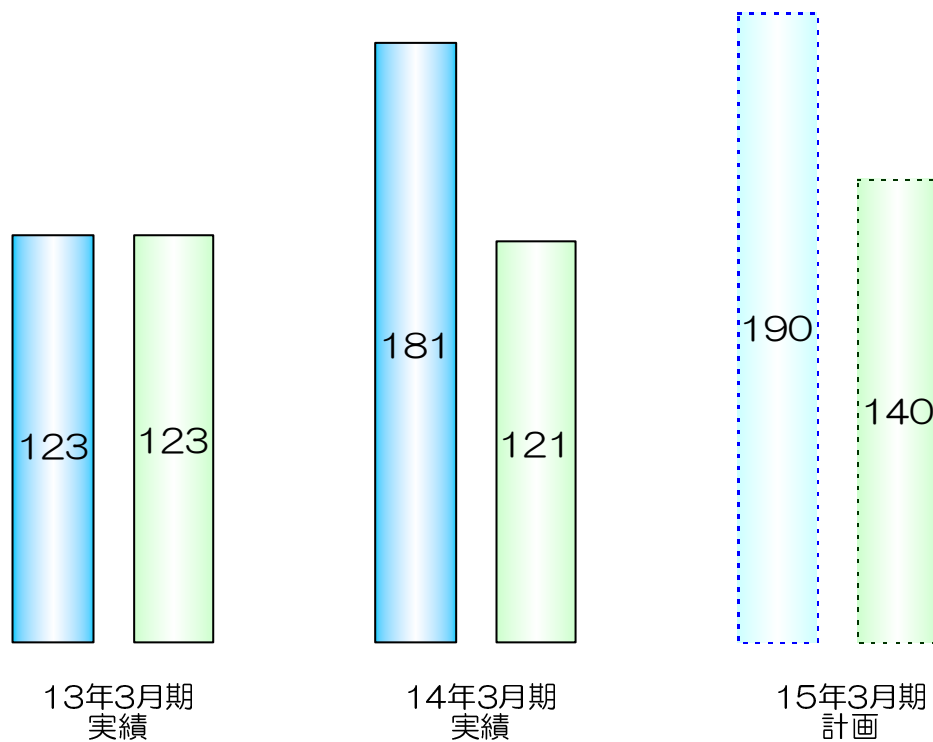
(単位：億円)



資本的支出・減価償却費

- 資本的支出
- 減価償却費

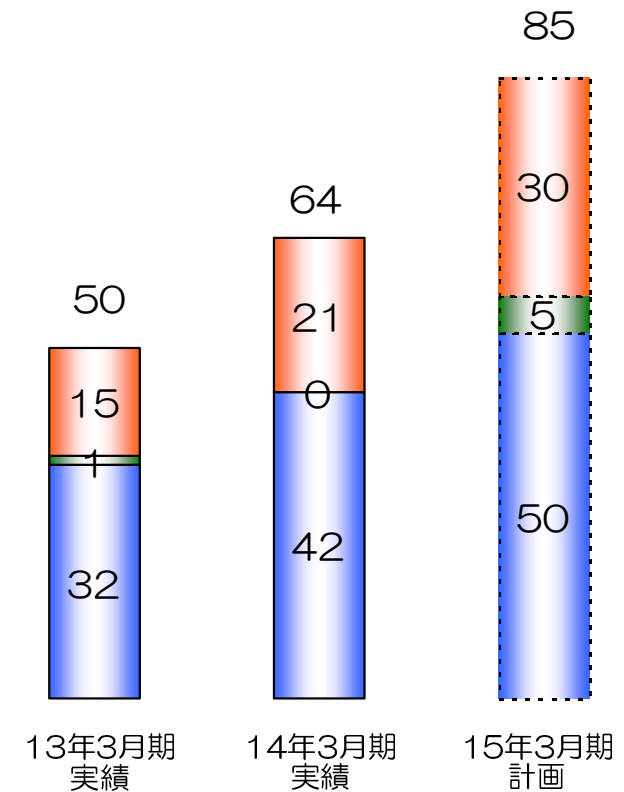
(単位：億円)



研究開発費

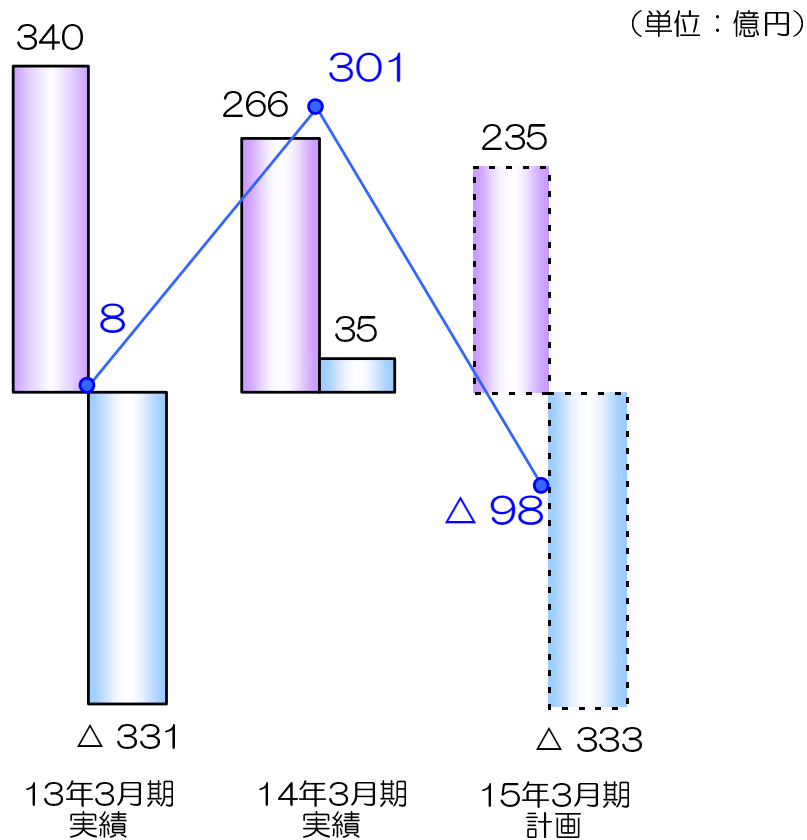
- 風水力
- エンジニアリング
- 精密・電子

(単位：億円)



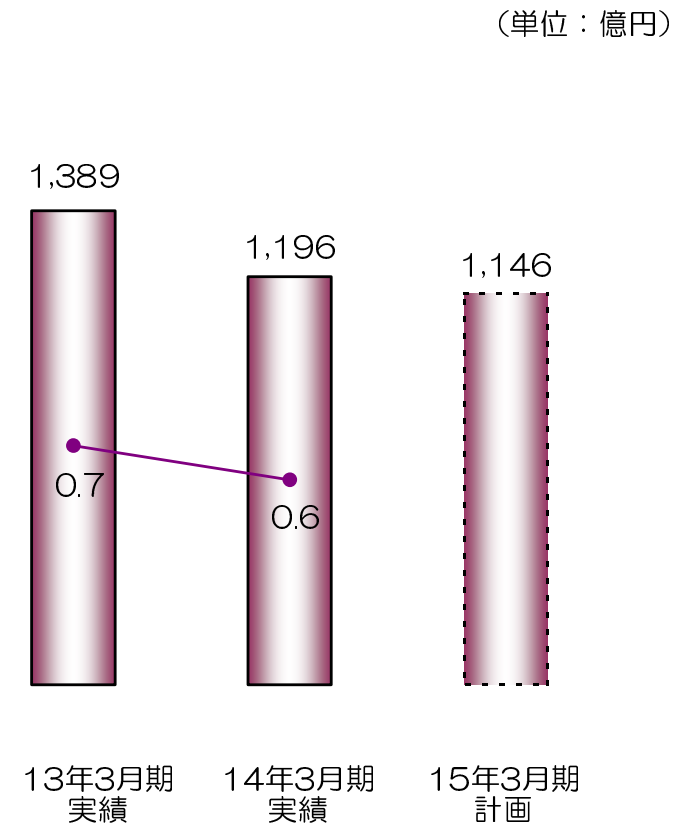
キャッシュフロー

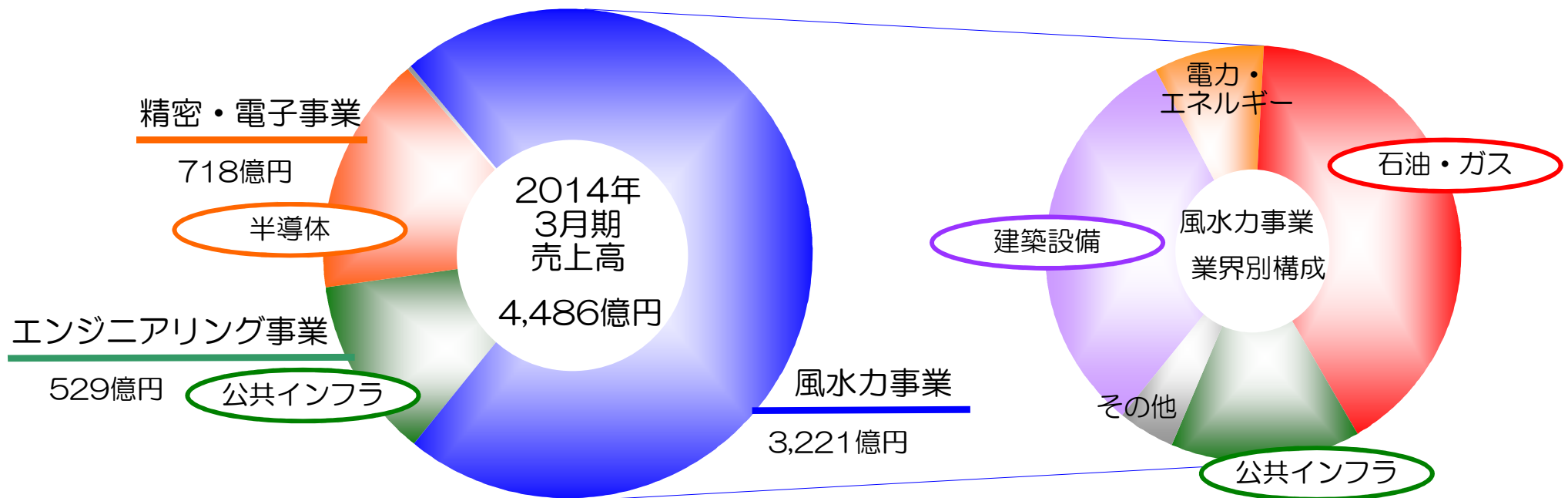
- 営業活動キャッシュフロー
- 投資活動キャッシュフロー
- フリー・キャッシュフロー



有利子負債残高

- 有利子負債
- D/Eレシオ (倍)





主な事業環境

- 石油・ガス → 特にダウンストリーム市場の規模拡大は続く
- 公共インフラ → 安定的 国土強靱化政策による好影響は継続する見込み
- 建築設備 → 国内中心、安定的 消費税増税による駆け込み需要の反動も限定的
- 半導体 → 市場は回復基調

(単位：億円)

	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (計画)	増減
受注高	5,122	5,300	+ 177
売上高	4,486	4,900	+ 413
営業利益	321	340	+ 18
経常利益	313	340	+ 26
当期純利益	189	200	+ 10

為替レート

1ドル = 99.7円

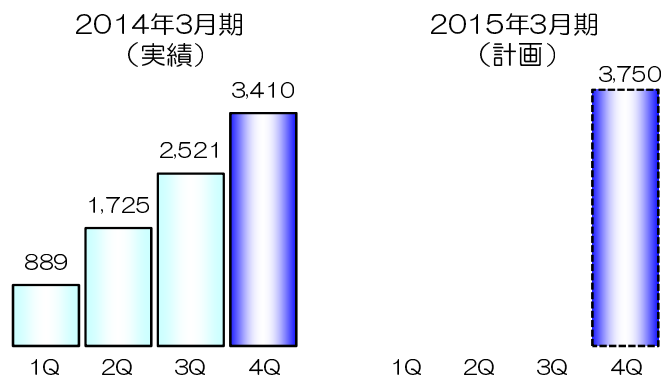
1ドル = 100円

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2014年 3月期 (実績)	2015年 3月期 (計画)	増減	2014年 3月期 (実績)	2015年 3月期 (計画)	増減	2014年 3月期 (実績)	2015年 3月期 (計画)	増減
風水力事業	3,410	3,750	+ 339	3,221	3,550	+ 328	221	220	△ 1
エンジニアリング事業	986	780	△ 206	529	600	+ 70	47	60	+ 12
精密・電子事業	708	750	+ 41	718	730	+ 11	46	60	+ 13
その他事業調整	16	20	+ 3	16	20	+ 3	6	-	△ 6
合計	5,122	5,300	+ 177	4,486	4,900	+ 413	321	340	+ 18

### 風水力事業

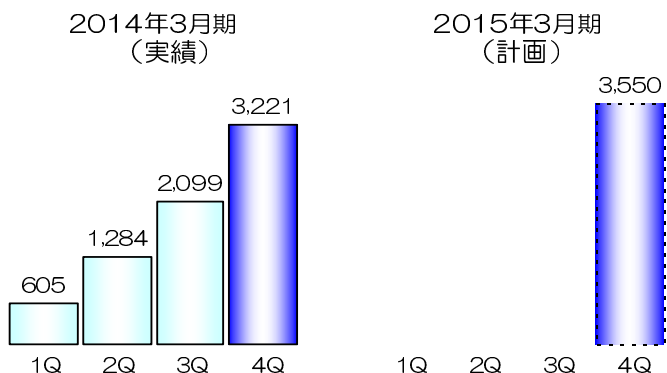
#### 受注



#### 【受注】

- ・石油・ガス市場、化学市場関連の新規投資がグローバルで活発化
- ・特にコンプレッサ・タービン事業が受注の伸びに大きく貢献

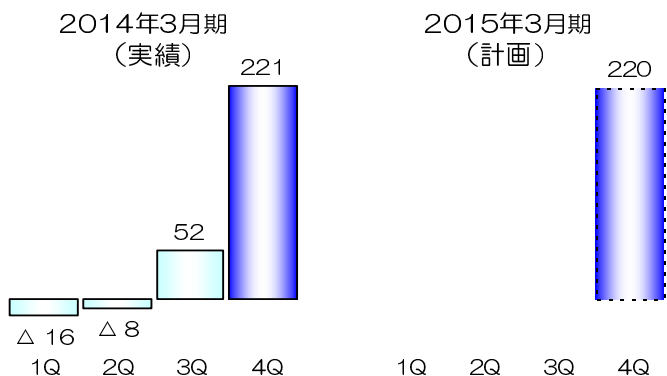
#### 売上



#### 【売上】

- ・2014年3月期までの受注案件が着実に進捗し、売上は大きく伸長
- ・ただし売上が増加するのはサービス&サポートよりも製品が中心

#### 営業利益

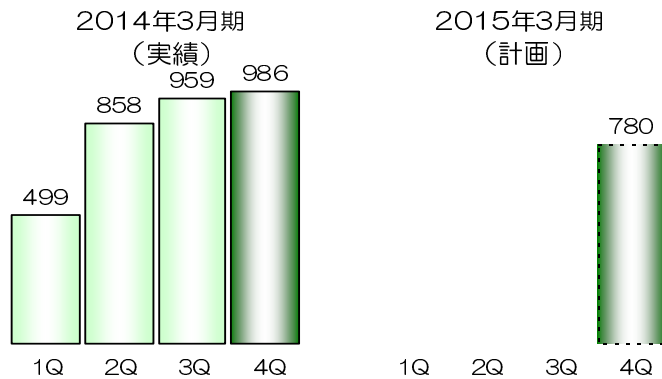


#### 【営業利益】

- ・製品の売上はサービス&サポートよりも営業利益貢献が低く、売上の伸びほどは利益が伸びない
- ・成長投資の進捗および事業間の費用配分基準の変更により固定費が増加

### エンジニアリング事業

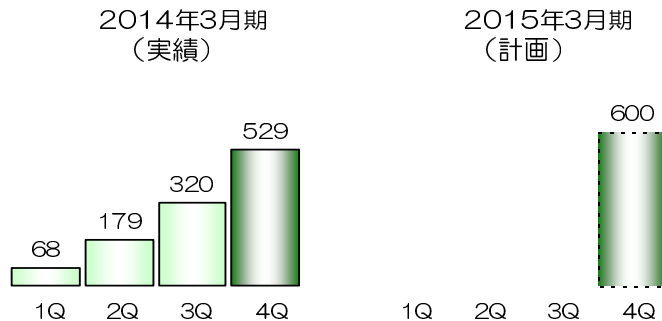
#### 受注



#### 【受注】

- 当社の強みを活かせるEPC案件や基幹的設備改良案件を確実に受注

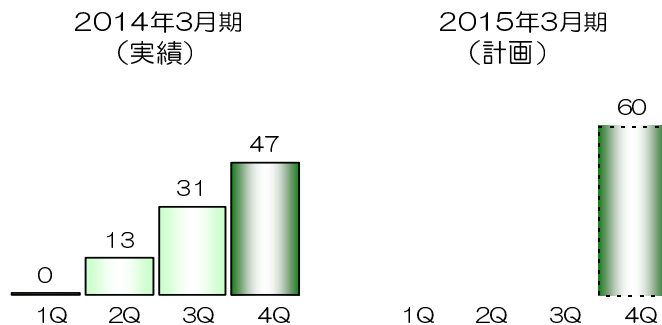
#### 売上



#### 【売上】

- 2014年3月期までに受注した複数案件について工事の進捗が進む
- O&M事業の売上増加

#### 営業利益



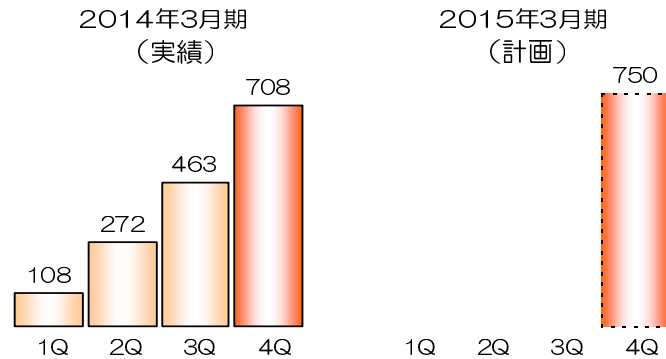
#### 【営業利益】

- O&M事業の安定した収益構造に変化無し
- 事業間の費用配分基準の変更により固定費が減少



### 精密・電子事業

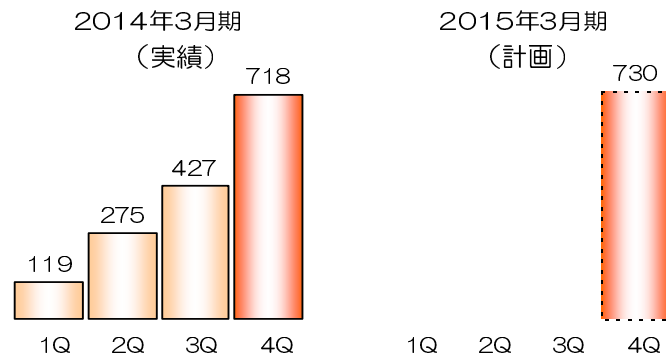
#### 受注



#### 【受注】

- 半導体市場は回復基調。ただし半導体製造装置業界は主要顧客の設備投資計画の進捗次第

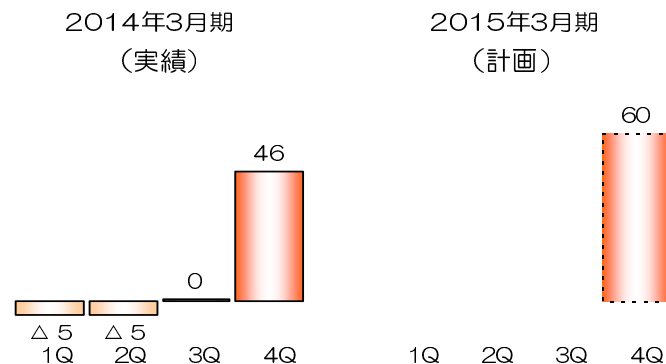
#### 売上



#### 【売上】

- 受注の伸長とともに売上也伸びる見込み

#### 営業利益



#### 【営業利益】

- 価格圧力は厳しいことが予想されるが、生産革新運動の深化など継続的な原価低減に努める
- 事業間の費用配分基準の変更により固定費が減少

---

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定、を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。